

神戸市シルバーカレッジ 講義概要(シラバス)

コース 専 攻	総合芸術コース	園芸専攻	対象学年	3 年
講義日	令和 8 年 9 月 18 日(金)			
テーマ	六甲山の自然の特色			
講 師	兵庫県立大学名誉教授 服部 保			
講義内容 大都市神戸の背後にそびえる六甲山に対して、神戸市民はたいへん親しみを感じ、また誇りに思っています。ところが、東京の高尾山、札幌の藻岩山、長崎の稲佐山、大阪の生駒山などの都市周辺の山々と比較して、六甲山の自然の特徴を正確に答えられる市民の方はたいへん少ないです。 六甲山には六甲山にのみ固有に分布している生物はいません。また、人の手の加わっていない原生自然も存在しません。何が特徴なのでしょう。 六甲山の特徴は、①近畿地方の中心に位置すること、②暖温帯（低山帯）と冷温帯（山地帯）という二つの植生帯（気候帯）を持つこと、③様々な地域から移動してきた 6 つの生物群から構成される生物相をもち、それらが共生していること、④江戸時代には、はげ山になってしまったが、明治時代に緑化復元に成功し、その記録を残したこと、⑤大都市に隣接した 1000m 級の山岳・すなわち日本一の都市山（としやま）であることの 5 つがあげられます。 以上のように、都市山六甲山は素晴らしい山地ですが、温暖化による生物多様性の低下、豪雨の発生による斜面崩壊の危険性、植生遷移の進行による植生の単純化と表層土の流失、シカの侵入による植生破壊と表面侵食の危険性などの問題が発生しています。 以上のような六甲山の素晴らしさと六甲山の問題点についてお話しいたします。				
講師からのメッセージ 都市山（としやま）・六甲山の本当のおもしろさと今後の課題をお話しします。東京の高尾山、札幌の藻岩山、大阪の生駒山などと比較して六甲山のすばらしさと危険性がわかりますよ。				